

自己評価報告書(最終報告)

報告者

芸術系コース(美術)／野崎
窮

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業内容:附属小・中学校における教育研究会や大学院の教育実践フィールド研究の関わりから見えてきた題材などを基に授業の構築を図る。②授業方法:学校現場に必要とされている実技能力の育成を現場に即した内容にできるだけ近づけながら、かつ、ある程度の専門性におけるレベルを保てる課題を精選していく。③成績評価:成果物である作品の評価だけでなく、論理的思考能力の向上と鑑賞教育に結びつけるレポートを課し評価する。加えて、コミュニケーション能力を高める共同制作や制作途中に講評会をはさむなどの授業の工夫をし、プレゼンテーション能力を試し評価する。つまり、全体として多くの観点から総合的に成績評価を行う。

2. 点検・評価

①授業内容:附属小・中学校における教育研究会や大学院の教育実践フィールド研究の関わりから見えてきた題材などを基に授業の構築を図った。学校現場に必要とされている実技能力の育成を現場に即した内容にできるだけ近づけながら、かつ、ある程度の専門性におけるレベルを保てる課題を考えた。②授業方法:コミュニケーション能力を高めるための共同制作や制作途中に講評会をはさむなど、学生が発言機会を多く持てるよう、授業の工夫をした。③成績評価:成果物である作品の評価だけでなく、論理的思考能力の向上と鑑賞教育に結びつけるレポートを課し、評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・特に本年度から担当する学部の授業である「図画工作Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」の授業内容の確かな構築に力をそそぐ。とりわけ導入部に参考作品を提示したりすることで魅力ある授業にする。また当該授業で身につく能力を明確に示し、学生のモチベーションを高め授業を行う。

・各学生の進路に応じたきめ細やかで親身な対応を心がける。その際、言葉遣い等の社会人としての礼儀を指導する。

・ゼミにおいて各学生のプレゼンテーション能力の向上を図る。またコンクール等へ積極的にエントリーするよう促す。自主的な制作をサポートするにあたり適切な資料とアドバイスを与える。

2. 点検・評価

・本年度から担当する学部の授業である「図画工作Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」の授業内容の確かな構築に力をそそいだ。とりわけ導入部に参考作品を提示したりすることで魅力ある授業になるよう努力した。また当該授業で身につく能力を明確に示し、学生のモチベーションを高め授業を行った。

・ゼミにおいて各学生の進路に応じたきめ細やかで親身な対応を心がけ、その一環として、教採におけるデッサンの実技能力向上のための個人指導を行った。

・ゼミにおいて各学生のプレゼンテーション能力の向上を各自の作品におけるコンセプト等を語るにより図った。またコンクール等へ積極的にエントリーするよう促した。自主的な制作をサポートするにあたり適切な資料とアドバイスを与えた。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

・全国規模の彫刻コンクールに積極的に応募する。

・全国的なグループ展、地域等のグループ展などに積極的に参加する。

・制作学、教材研究に関する資料収集をし、論文作成の準備をする。

・依頼されているモニュメントの様々な模型を試作し、本作に備える。そのモニュメントの制作過程を記録し、授業などに生かせるようにする。

2. 点検・評価

・全国規模のコンクールに積極的に応募し、入選を果たした。(第10回「風の芸術展」トリエンナーレまくらざき、入選)

・地域のグループ展に積極的に参加した。(「風と土のかたち展」三重県伊賀市後援に参加等)

・制作学、教材研究に関する資料収集をし、論文作成の準備をした。国外・国内の研修時に多くの彫刻作品等を鑑賞した。

・依頼されているモニュメントの様々な模型を試作し、本制作に備えた。その後、中国(福建省)の石材店に依頼し、半製品までの制作を行った。そのモニュメントの制作過程を記録し、授業などに活かせるようにしている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・大学院学校教育研究科教務委員会委員及び地域連携委員会委員としてその役割を誠実に果たす。
- ・大学院定員充足に向け、広報活動として野崎研究室のWebページの更新を図り、内容を充実させる。
- ・教職キャリア支援センター・実技能力支援分野(美術教育)の担当教員として新体制の確立に努める。

2. 点検・評価

- ・大学院学校教育研究科教務委員会委員及び地域連携委員会委員としてその役割を誠実に果たした。その中で特に県の教育委員会との関わりで「生涯教育ネットワーク部会」委員として連絡・調整役を行った。
- ・大学院定員充足に向け、広報活動として野崎研究室のWebページの更新を図るため、該当アプリケーションソフトを最新版に変え、内容を充実させた。
- ・大学院定員充足に向け、コースの取り組み(募集要項の送付)に協力した。
- ・教職キャリア支援センター・実技能力支援分野(美術教育)の担当教員として新体制の確立に努めた。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・附属学校で行われる教育研究会に積極的に参加する。
- ・例年通り、本学公開講座「デッサン教室」の講師を務め、地域の文化に貢献する。
- ・地域企業との関わりの中で環境造形として彫刻の展示を行い、地域の文化に貢献する。
- ・全国高等学校文化連盟の基本問題検討委員会委員としてその役割を誠実に果たす。

2. 点検・評価

- ・附属学校で行われた研究授業などに積極的に参加した。
- ・例年通り、本学公開講座「デッサン教室」の講師を務め、地域の文化に貢献した。
- ・地域企業との関わりの中で作品をレンタルし、環境造形として彫刻の展示を行い、地域の文化に貢献した。
- ・全国高等学校文化連盟の基本問題検討委員会委員としてその役割を誠実に果たした。
- ・教育支援講師・アドバイザー等の派遣の一環として徳島県立名西高校において実技指導と講演を行った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)